リニューアル

火おこし体験

「まいぎり」という道具を使って火おこしに挑戦。火がおきた時の達成感は格別で、その火を使っての料理やキャンプファイアに発展できます。

対象	実施時期	定員	所要時間
４年生以上	通年	５～１２０人	１時間半～２時間
可能な活動場所			
ピロティ・車庫・中庭・キャンプファイア場・せせらぎ広場・炊事場・避難所			

利用者持ち物	プラザ貸し出し備品	プラザでの販売品
軍手	火きり杵（グループに１）・短いトング（１）・厚紙（１）・一斗缶	1 セット：火きり板（1 枚 12 穴を用意）・麻ひも・麻網 ※火きり板の追加 100 円(1 枚 12 穴) ※1 セットは、3～6 人で使用することを想定しています。

ねらい

・昔の火おこしの方法を知り、それを体験することによって先人の知恵や工夫を知るとともに、火の大切さとありがたさを理解させる。
・協調や協同を通して豊かな人間性を育成する。

実施の流れ

打ち合わせ・説明

◆開始 15 分前に、当所職員と団体代表者の打ち合わせを行います。
◆説明は当所職員が行います。

以降は、団体で進行してください。

準備

① 班に分かれる（１班３～６人程度）
② 班に１つ丸太の椅子を用意する。
③ 班ごとに道具の準備をする。（火おこし器、火きり板、麻ひも、麻網、厚紙、短いトング）

実施

※別紙（次ページ）参照

片付け

① 道具を片付ける。

② 使った場所の掃除をし、ゴミは所定の場所に捨てる。
〇燃えカス→専用缶（一斗缶）

③ 麻ひものカスや、燃えカスが散らばるので、掃き掃除を丁寧にする。

まとめ

・ふりかえり。
・感想発表等。

留意点

① 火を使う活動です。火傷等充分注意しましょう。

② 火種を吹く場所を確保するようにしましょう。火おこしをしている所で吹くと、火種が飛び散ってくることがあります。人のいない所で行いましょう。

③ 後片付けを、しっかりしましょう。

④ 万が一の為、消火器の場所を確認しておいてください。

⑤ 山火事に注意してください。（特に風が強いとき）

※天候に左右されます。湿度が高い時は火がつきにくいことがあります。
※火口をいじりすぎると手の指の脂や汗などで火がつきにくくなるため、要注意。

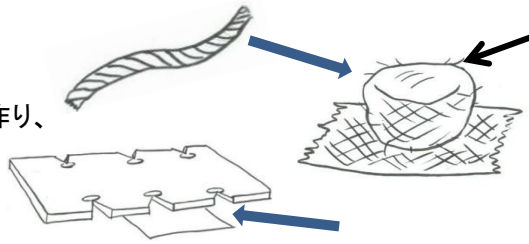
火おこし（まいぎり法）

埼玉県立名栗げんきプラザ

【じゅんび】

① 麻ひもをほぐして鳥の巣のような形（火口）を作り、麻のあみにのせる。

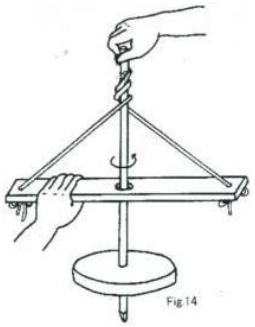
② 火切り板の穴の下に厚紙をはさむ。



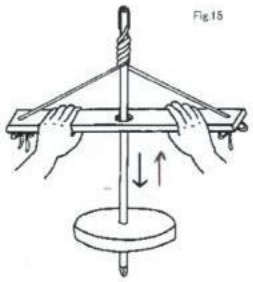
※火口をいじりすぎると、手の指の脂や汗などで火がつきにくくなるため、要注意

【火おこし】

③ 板の穴におき棒にひもを巻きつける

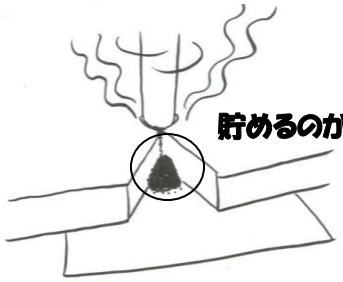


④『両手で押し下げ反動で上げる』をタイミングよく、くりかえす



とまらずに回転させるのがコツ！

⑤ けむりが出はじめ、黒い木くずが出てくる。



まだ火だねはできてないよ　あと板をしっかり押さえないと努力がムダになるよ

⑥ 木くずからけむりが出てきたら、赤い火だねができている。

⑦ 火だねを紙にのせたままそっと火口に入れる。

※しっかり<u>中央に</u>入れないと、次の工程で落ちる。

⑧ 麻のあみでくるみ、合わせ目を下にしてトングで優しく挟む。なるべく長く息をふきかけて火をつける。

※手の火傷や前髪をこがさないよう気をつけよう！

※息を吸う時、煙を吸わないように、息つぎは横を向いて行おう。

⑨ 火がついたら、下に落とす